



記念山行・レセプション・ギャラリー・記念誌発行 etc

1年の活動を振り返り 50周年の『山』を語る ～ 新年会 盛況!!



1月17(土)・18(日)は恒例の新年会&スキーの日。白馬たまねぎ村を会場として2015年幕開けとなる新年の集いが行われました。おりからの大雪で、たまねぎ村周辺は丈余の雪に覆われ、朝から懸命の除雪でやっと6台分の駐車場を確保するという状況下、松川の仲間を乗せて会場に向かっていた車が、あまりの風雪に4名が参加を見合わせUターンすることになって、予定より大幅減の10名の参加に留まりましたが、温かい鍋を囲んで2014年の会の活動を振り返り、また50周年記念の行事について活発なアイデアが出される等、大いに盛り上がりました。とりわけ記念山行をリレー方式で繋いでアルプスを縦走してはどうかと言うアイデアに関心が集まり、白馬大池を起点として槍ヶ岳以遠を目指す～と言う具体的な候補も上がって夜遅くまで意見を交わしました。

その他の記念行事としては、創立以来の関係者を交えたレセプションとトーク企画、ヒマラヤ遠征等の国内外の山行活動をパネル展示するギャラリーの開催、50周年記念の『ごんぞ』の発行等々、多彩なアイデアが出されました。

翌18日(日)のスキーには3名、スノーハイクには4名が参加。一点の雲もない好天に恵まれた岩岳スキー場、岩嵩山の新雪と大展望を楽しみました。

2015年度 **年次総会・開催間近** 3月24日(火)7時

知恵を出して会の活性化, 50周年記念事業の成功を
都合で出席できない会員は、必ず会長に連絡してください

第11回拡大役員会報告出席7名: 勝野・小林・谷口・古畑・小山・鈴木・森田

2月10日(火)の拡大役員会には7名が出席し、山行・行事の確認、年次総会、50周年関連企画、当面の山行計画等について協議しました。

1; 山行報告

- ① 2/1 県連アイスクライミング講習会: 氷瀑着雪のため中止
- ② 2/5 硫黄岳 強風のためコース変更し、美濃戸口:行者小屋・中山峠周回
勝野 小山 内藤 (齊藤)
- ③ 2/5~7 丹沢(塔ヶ岳)・伊豆(天城山) 中止
- ④ 2/7 黒姫山(山スキー); 鈴木
- ⑤ 2/8 根子岳・四阿山; 中止

2、1/31 大町労山を知る会について

一般参加: 古畑夫人

出席会員: 石井(2) 勝野 桑原 小林 小山 鈴木 土田 鶴川 平林 森田
まとめ: 開催時期が不適切だったと思われる。過去10余年分の山行をスライドで見ることにより、会員にとって活動を知る機会になったのではないかと。

3; 総会について

特に会の活性化(連絡体制強化を含む)と50周年記念の諸活動について方向性を出す。そのため、3月10日の拡大役員会で議案を集中論議するので万障繰り合わせて出席されますよう要請します。

4; 50周年記念関連企画について (案)

- ① 記念山行(北アリレー縦走7月~10月, 隔週程度); 担当: 鈴木・勝野・小山
 - ② レセプション(ヒマラヤトーク等); 担当: 桑原・小林・谷口
 - ③ ギャラリー(活動の視覚化=映像パネル展示); 担当: 森田・勝野
 - ④ 記念誌『ごんぞ』50周年特集; 担当: 井川・森田
- ※県連記念誌 各会紹介; 担当: 谷口 お薦め登山ルート原稿; 担当: 森田

5; 当面の山行・行事

- ① 2月15日(日) 小檀嶺岳; 谷口 臼井 神津 土田 内藤
- ② 2月22日(日) 北八ツ(蓼科山予定) 鈴木 内藤

2月24日(火)2月例会/3月10日(火)拡大役員会~全員の出席を求めます!!

岩岳スノーハイク

1月18日(日)

報告 内藤 雪絵

同行者 桑原 鈴木 森田

快晴の日、岩岳スキー場でスノーハイクを楽しんで来ました。

どんぐり村の奥にある、もう使われていないリフトづたいに登り、ゲレンデへ合流。上でネズコの森ウォーキングコースに行くというプラン。

わかんをはいてスタート。前日は大雪だったので、トレースもなくふかふかの雪。これがとても気持ちいい。が、登るにつれて傾斜が増し、ラッセルをしないと進めない所も出てきた。2番手を歩いていると感じないけど、1番になったとたん大変で、1歩がなかなか進まない。

今日はスノーシューハイキングでのんびり…、と聞いていたのに、まさに冬山登山そのもの！ ラッセルなんて初めての体験でした。

でも景色も同じく初めての冬の快晴！ 白馬岳から唐松岳が目の前にドーンと見えていて素晴らしい景色!! かっこよすぎるう!!

ゲレンデ上部のレストハウスでは、スキー組の人達とも合流でき、天気の良いさを皆で絶賛。午後になっても山々がくっきりと見えて最高でした。

昼食後は、スノーシューのコースになっているネズコの森へ。こちらはトレースがしっかりしていて、逆に物足りない!? あずまやの屋根には、雪がたっぷりとのっけていて、かまぐらの様でかわいかった。

下山はあの急坂を下りるなんて… とビクビクしていたのに、尻セードも楽しみながらあっという間でした。

冬の山は敷居が高くて、寒くてつらそうと思っていましたが、経験者と一緒、そして天気の良い日ならこんなに楽しめるんだと発見した1日でした。



山滑走 白馬乗鞍～頂上～柵池

2015年1月25日(日)

横田 竜三



今シーズンはコルチナススキー場が激混みの為、山スキーへと行ってみた。

毎年何回か来るが、天気もよく眺望も出来た。実にいい天気であった。

柵池8:00発のゴンドラに乗り、柵の森駅まで20分、今日はアーリーモーニングと言って6:30から白樺ゲレンデがリフト開始しており、一日券を購入したため、柵の森ゲレンデで3本ほど滑ってから林道を歩着始めた。

昨日(土曜日)のラッセルは埋まっており、一番前の方はしんどかったと思う。9:30に成城小屋へ到着。汗かくほどの気温である。

成城小屋から天狗原までが一番きつい勾配であり、1時間かかる。けど滑ってみるとたいしたことのない斜面で不思議だ。10:40天狗原に到着。ここでは1番先の人はまだ頂上付近だ。

天狗原から頂上まで40分掛かって11:20到着。南は槍・穂高、東は妙高・火打等が眺望出来た。実にいい天気である。

11:35にドロップイン白馬乗鞍岳の東斜面は気持ちいい。ものの3分で天狗原に滑走終了。登り返したいが、1日券購入したため、柵の森まで下る。

柵の森に11:55分でした。あっけなく終了。

乗鞍岳から天狗原並みの斜面が続けば楽しいのにといつも思ってしまう。天気が良いと迷うことはなく、トレースもはっきり残っているが、降雪時の場合だと見失う可能性もあるのでしょう。

〈今回の反省点〉

- ・適当に人について行ったため、鶴峰の方に向かい少し廻り道をした。

私の山歴(7)

長谷川恒男と南米アコンカグアへ登る 桑原 巖

1982年1月7日私は世界的に著名の登山家、長谷川恒男氏のガイドにより、南米アンデス山脈の最高峰アコンカグア峰(6959m)への登頂を果たした。今から33年前46歳のときであった。当時私はまだ現職の公務員で新潟県長岡市から現在と同じ白馬村にある松本砂防工事事務所への転勤を命じられて勇躍赴任したばかりであった。山岳雑誌で長谷川恒男事務所のアコンカグア登山隊の募集を知り若い山仲間と二人で応募し登山隊に加わった。

この登山隊は長谷川恒男氏を隊長に長谷川事務所の4人の登山リーダーにマネージャー1人、それに応募隊員9人の合わせた15人の登山隊となった。このうち女性は3人で最高齢は46歳の私であった。登山隊の合同訓練は顔合わせを兼ねて丹沢で1度だけ行われた。

1981年12月25日羽田から出発しカナダのバンクーバー経由でチリのサンチャゴへ、サンチャゴからアルゼンチンのメンドーサへ。メンドーサはアコンカグアの登山基地で、ここで入山許可の手続き、装備、食糧の購入、点検整備など登山の準備をする。この日の夜は郊外で葡萄農園を経営している日本人の増田さんの招待を受けて農場でのワインと焼き肉のパーティーでご馳走になった。ちなみに長谷川氏と増田さんは旧知の間柄だとのことである。

12月29日登山の出発点となるプエンテデルインカへ向かう。荒涼とした大地の中を流れる濁った激流に沿って車を走らせるとやがて国境警備隊の基地プエンテデルインカに到着する。ここで警備隊から最後の入山チェックを受ける。この日はここにテントを張り、近くの山に高度順応に出かけた。ここにはかなり高温の温泉が湧いていたが入浴はできなかった。

31日、ここからキャラバンが始まる。登山隊の装備は警備隊の馬で運ぶのだそうである。ルートはアコンカグアから流れ落ちるオルコネス川に沿って遡上する。途中かなり厳しい渡渉もある。この日は長谷川氏がアコンカグア南壁冬季単独登攀を成し遂げた南壁へ通じるルートとの出会いの草原にテントを張った。馬はここまでである。この夜私はテントには入らず長谷川氏と二人で近くの岩の下でシュラフに潜り込み、南十字星を仰ぎながら眠りについた。

1月1日ベースキャンプ地プラサデムーラスへ到着。ここにベースキャンプを置いて登山活動するわけだがここでは水に苦労した。そばにオルコネス谷が流れているのだが水の濁りの粒子が細かすぎて濾過できず飲み水に使えないのである。仕方なく上流で氷間から僅かに流れ出るきれいな水を貯めて飲み水に使用した。

1月2日、今日から登山活動が始まる。ここから頂上までは、C1(5200m)

C2 リベルター小屋(5750m)、C3 インデペンデシア小屋(6400m)と3つのキャンプをもうける計画であるが、上部の小屋2つは使用できないようですべてテントの設営が必要だ。頂上へのアタックは3つのグループに別れて行う予定で、私は一緒に応募した12歳年下の宮腰とペアを組むことになり、リベルター小屋まで2回往復した。リベルター小屋は1坪ほどの小さい小屋が5~6棟あり、どれも雪が吹き込んでいたが、私と宮腰はピッケルで中の雪を掻き出して中に入った。この日は風もなく結構快適に眠れた。3度目はいよいよアタックとなり、私と宮腰が第一登頂隊に指名された。リーダーは長谷川隊長だ。2人とも予想外なことに驚き、他のメンバーには申し訳ないような気持だった。

1月6日、アタック開始C2までの大斜面はすでに2度経験済みで順調に高度が稼げ、未経験の高度C3にも難なくたどり着いた。C3のインデペンデシア小屋はかなり大きな小屋だが屋根が飛んで青天井だった。この夜は小屋の中にテントを張った。今夜も風がなく快適だ。1月7日、朝食が済むと頂上へ向かって出発。小屋を出るとルートはかなり深い雪のトラバースになった。長谷川隊長がラッセルで進む。すごい馬力だ。ルートはやがてコンドルの巣と呼ばれる大岩壁の下のルンゼ状の直登になる。ラッセルで進む隊長のスピードは全く衰えない。ルートは左に折れて緩い斜面に入った隊長の姿が岩稜の陰に隠れ見えなくなり、それを追うように宮腰の姿も岩稜に隠れた。気は焦るがピッチは上がらない。孤独な歩みがしばらく続き、岩稜の陰から抜け出て上空が広がり、やや平坦な場所出たと思ったらそこに宮腰が立っていた。『頂上はもうそこです。あそこに長谷川さん居ます』と声を掛けてきた。ゆっくりと隊長の許へ歩み寄った。『おめでとう』隊長の祝福を受け3人でしっかりと手を握りあった。1982年1月7日アコンカグア(6959m)登頂。

写真; 1982年1月8日20:30 アコンカグアCPにて

